

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2025 助成の概要と推薦理由

助成番号 25-3-2

プロジェクト名 入院中・長期療養中のこどもたち・そのきょうだい
家族を支援するネットワーク
「小児病棟わくわく応援団」の情報発信力強化

団体名 小児病棟わくわく応援団

代表者名 熊谷 恵利子

所在地 大阪府

助成額 200万円

助成期間 2025年4月1日～2026年3月31日

設立年 2023年

URL https://www.clinicdowns.jp/O4_wakuwaku.html



コロナ禍における病院への訪問制限により、さまざまな支援団体が試行錯誤しながらもオンラインプログラムなどを新たに開発し、支援を届けてきた。しかし、支援を必要としている人たちに万遍なく情報を届けるには、支援団体同士の連携や情報共有が有効であるものの、そのような支援団体同士がつながるネットワークは皆無であり、各団体も必要性を感じながらも、マンパワー不足などから積極的には取り組めていなかった。

2023年に開催したタケダ・ウェルビーイング・プログラムの団体交流会をきっかけに、参加団体同士がつながり、全国の小児病棟の療養環境を支えていく方法を共に検討するため、「小児病棟わくわく応援団」が立ち上がった。

助成1年目は、団体の立ち上げ期にあたり、応援団を運営する幹事6団体のミーティングや勉強会の実施など、定期的な学びと交流の機会をつくった。

助成2年目は、上記に加え、6団体のみならず、病院スタッフ・家族などさまざまな立場の人に向けて「小児病棟にわくわくを届ける勉強会」を実施した。加えて、学会でのブース出展や公式LINEを設置するなど、多方面への情報発信を強化した。

その結果、幹事団体同士の連携が深まり、情報共有だけでなく、気軽に相談できる関係性が構築された。また、新たに医療職とのつながりが生まれ、ネットワークの認知度向上につながった。

3年目となる今回は、情報発信を強化するとともに、全国の病児家族のサポート団体の現状を把握するために、支援団体の協力を得て、病児家族のサポート団体一覧が見られる冊子作成に取り組む。

多方面へとネットワークが広がり、情報発信力の強化とともに、このネットワークが確実なものとなり、情報を発信するプラットフォームとしての役割がもてるよう、期待する。